

2018年度活動報告

はじめに

2019年5月をもって引退馬協会は2018年度(第9期)を終了しました。支えてくださっている会員の皆さま、ご寄付やボランティアを通じてご支援いただいている皆さまに、心より御礼申し上げます。

2017年度から継続的にJRAが中心になって立ち上げた複数の委員会で沼田代表が引退した競走馬や乗馬の余生支援のために意見を届け、JRAから今後の引退馬支援について今年5月に概要が発表されました。また、今まで地道に活動に取り組んできたことが評価され、2018年末にJRAより奨励金として1000万円が支給されました。奨励金は、引退馬をセカンドキャリアへ繋ぐ再就職支援プログラムや、馬についての知識を深めるセミナー開催に費用に充て、今後も引退馬支援全般に活用していきます。

2018年7月には、「認定NPO」として初の更新があり、2023年7月までの5年間、「認定NPO」として活動していくことが可能となりました。その中で、就業規則の策定など労務面での「働き方改革」を図るよう指導があり、一年間をかけて社会保険労務士や弁護士の力を借りて整備をし、テレワーク(在宅勤務)を実践していることが評価されて、厚生労働省から「時間外労働等改善助成金(テレワークコース)」を受給することができました。NPO法人といえども、企業としてのコンプライアンスが求められる時代、これからも責任ある団体として活動して参ります。

各事業に関する詳細を以下に報告いたします。

1)馬と人のふれあい事業

この事業は、フォスターホース(以下、FHと記載)たちの体験騎乗や、手入れ、ツアーなどでのふれあいを通じて馬の温もりに接し、馬という動物についてより知っていただき、親しんでいただくために行っています。

千葉のフォスターホースの預託先である乗馬倶楽部イグレットで重要なイベントとして隔月で行っている「FHと過ごす日」や、全国各地に預託しているFHたちとの自由訪問でのふれあいの他、安全指導を含む馬との接し方・乗り方の講習会の開催、及び、FHにゆかりのある牧場や引退競走馬たちを訪ねる見学ツアーや、養老牧場でのボランティアツアーを実施しています。

また、「再就職支援プログラム」では、引退競走馬に初期馴致を行い、適材適所への譲渡活動を行っています。

① 「FHと過ごす日」の開催及び騎乗指導

2018年度は計5回開催、そのうち8月の開催では毎夏恒例の一品持ち寄りバーベキューとの同時開催とし、会員同志が親睦を深めました。

体験騎乗ではハリマブライトやコアレスピューマが活躍。藤本



コアレスピューマ、会員さんを背に。

美芽氏を講師に迎えたミニセミナーは、馬についての理解を深めるために役立つと毎回好評をいただきました。進行補助や送迎、レポートなど、たくさんの方にご協力いただき、改めて御礼申し上げます。

② 乗り方指導・馬の接し方講習会(含む安全指導)

かつてはグラールストーンやサマニターフが騎乗レッスンで活躍してきましたが、その後は乗ることができる馬がない状態が長く続きました。乗馬倶楽部イグレットに預託するコアレスピューマの調教も進み、イベント以外の日にも会員さんの騎乗が増えてきました。コアレスピューマでのレッスンを再開するにあたって、20年以上前に決めた騎乗時間や騎乗料金などが現況にそぐわないものとなってきたことから、料金体系を変更することを考えています。指導が必要な方の手入れ指導、乗馬のレッスンなど、乗馬クラブのスタッフによる指導料として時間によってクラブ側にお支払いいただく方向です。かつては騎乗料収入を「馬と人のふれあい事業」に計上してきましたが、2018年度は移行措置として、フォスターホースの預託先の収入としました。

③ 専門家を招いての指導(ミニセミナー)



藤本美芽先生とリーディングを学ぶ参加者

2018年度の「FHと過ごす日」では、5回の開催中4回、エクイエンズ株式会社の藤本美芽氏を講師に招き、馬について知っていただくためのミニセミナーを開催しました。人にとって都合の良い扱いやすさではなく、馬の側に立った見え方や音の聞こえ方など、引退馬協会が最も大切にする考え方をベースにした上で、リーディングや簡単なマッサージ、日頃できる馬のストレッチなどの実践的な講習をいただき、大変好評でした。啓発事業においても前年度に続いて「馬とのコミュニケーションメソッドセミナー」として実

施していますので、合わせてご参照ください。

④ 「引退競走馬再就職支援プログラム」による安全に接することができる馬の調教「再就職支援プログラム」の実施と卒業生見守り

2011年から開始した「再就職支援プログラム」は、引退した競走馬に対し、人とおだやかに暮らすための馴致調教を行うプログラムです。人間に曳かれてゆっくり歩くことができる練習や、乗馬としての常歩・速歩・駆歩を指示通りにできる基礎的な運動などを通しておおよその馬の性格や能力を把握し、それぞれの馬に適した場所へ譲渡することを目指し、譲渡する馬と譲渡先との mismatch を防ぐために大変有効なプログラムと考え、継続して行っています。

引き取り希望者とのきめ細かなマッチングや、卒業生の終生繋養を譲渡の条件とし、最後まで見守っていくことを大切に活動してきたことから、プログラムに馬を入れたい方が増えてきたため待機期間が長くなっていましたが、従来の千葉県乗馬倶楽部イグレットに加えて、2018年10月から群馬県のかなやま森林馬

事公苑に委託しています。また北海道で待機している馬のために、良い季節での調教をするため2019年4月から北海道千歳市の星野ライディングクラブ、安平町のエクワインファームの2ヶ所にも調教を委託することになりました。

また、再就職プログラムに馬を入れる人には、この事業の趣旨をご理解いただくために一年以上の正会員登録があることを条件とし、馬がプログラムを卒業した後も、正会員として継続して、共にその馬を見守り続けていただくことを新たに決めました。できるだけ多くの方にプログラムを利用していただくため、紹介馬の卒業後一年以上経過しなければ、次の馬のエントリーもできないようになりました。詳しくはホームページに記載しています。(https://rha.or.jp/fureai/followup.html)

	馬名	プログラム期間	調教施設	譲渡先(繋養先)
14期生	リン(バージンファントム)	2018/3/1~9/24	千葉県 乗馬クラブイグレット	山形県の農家
15期生	ブランレーヌ	2018/10/19-2019/2/28	群馬県 かなやま森林馬事公苑	Horse Space 紡(埼玉県)
16期生	サカジロキクチャン	2018/11/30-2019/4/21	群馬県 かなやま森林馬事公苑	個人(愛知県・元農家)
17期生	エリモアラルマ	2019/3/31-継続中	群馬県 かなやま森林馬事公苑	未定
18期生	ケイウンニシキ	2019/4/26-継続中	北海道 星野ライディングクラブ	未定
19期生	チャツミムスメ	2019/4/26-継続中	北海道 エクワインファーム	未定
20期生	フジノシラユキ	2019/4/27-継続中	群馬県 かなやま森林馬事公苑	未定

第2期生ボナンザーオペラ永眠

乗馬クラブフロンティアヴィレッジを経て、千葉県富里市のファームクラインガルテンで乗馬として頑張ってきたボナンザーオペラが、2019年5月28日に永眠しました。ご冥福をお祈りいたします。

⑤ 馬の養老施設視察・作業ボランティアツアーの実施



朝の飼い葉づくり

2019年4月12日から14日にかけての二泊三日で、会員11名、事務局スタッフ1名の計12名で、鹿児島県のNPO法人ホーストラストにて、毎年恒例のボランティア&見学ツアーを開催しました。

2018年度ではレンタカー同乗による事故の回避から、ジャンボタクシーを利用しました。被災馬FHのハーモニチトセチャンやコッチャンとのふれあいや、エナコのお墓参り、繋養されている馬たちの朝夕の飼い付けやお手入れ、放牧地のゴミ拾いや厩舎送付などの作業を手伝いました。ホーストラストの小西専務理事とのミーティングでは、ホーストラストの今後の展望を伺ったり、スタッフの方々とも親睦を深め、ホーストラストの活動について理解を深めることができました。

この形でのツアーは今回が最後となります。引退馬協会とホーストラストの関係が

深くなり、相互理解が進んだことからツアーの在り方を見直し、次回からは新たな形でツアーを実施する予定です。

⑥ 引退馬による「馬のいる風景」を守る取り組み

北海道標茶町が、ふるさと納税を利用した官民一体の養老馬の受け入れを始めたことで、引退馬の支援活動に長年の実績があるとの理由で引退馬協会より沼田代表がアドバイザーとして招かれました。標茶町は戦前馬の生産地としても知られていましたが、その広大な牧草地と、今ある施設を利用して、乗馬クラブの練習馬を引退した養老馬の受け入れを始めています。馬の最終ステージまでを見守る当協会にとっては、ホーストラストと同様大きな核となる施設と考え、今後も協力していく方向です。1月のホースメッセ(啓発事業の「写真展等」参照)では、「あなたの馬は引退したらどこへ行きますか」というタイトルでトークイベントを行い、標茶町の取り組みについても集まった乗馬関係者に向け発信しました。第2ステージ(乗馬)を終えた引退馬の支援は、今後も続けていきたいと考えています。

⑦ 北海道ツアー

2018年度の北海道ツアーは9月7日～9日までの二泊三日で計画し、今までで最多の参加お申し込みがありました。ツアー前日に胆振東部地震が発生したため中止となりました。本来、二泊三日のツアーと、一泊二日のミニツアーを交互で行うことになっており、2019年度はミニツアーの開催年ですが、2018年度に実施できなかった振替として、二泊三日のツアーを予定しています。2018年度のツアーは中止となりましたが、ニンジン代や訪問先へのお土産代など、既に発生した経費は支出として計上しました。

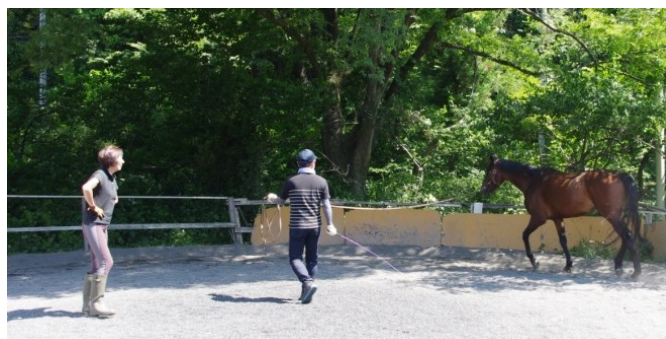
⑧ 「馬の眠る丘」プロジェクト準備

日本各地で亡くなった引退馬たちを、馬産地・日高で供養できる場所を作れないかとの思いから考え始めた「馬の眠る丘」プロジェクトですが、今年度は予算を計上したものの、具体的な活動は実施しませんでした。

⑨ 「第二回ハッピーライフセミナー」開催

2017年度の事業として計画した「第二回ハッピーライフセミナー」が講師の急病により延期となり、2018年6月2日～3日にかけての一泊二日で、埼玉県越生町の「Village My Esse」にて、同代表取締役の 小森恵子氏を講師に、募集定員いっぱいのご参加により開催しました。

このセミナーは、馬についての知識を深め、馬を引き取るにあたって、「人も馬もハッピー」になれるよう、馬を飼養する際に「アニマルウェルフェア」の視



調馬索運動の指導を受けて

点に立った飼養をするために必要なことを学び、馬を引き取ったり、自分で飼養するときの基準とすることを目的としています。

セミナーでは、馬の習性や病気についての座学、馬装やお手入れ方法、飼料やサプリメントの説明、調馬索や引き馬、乗馬指導と盛り沢山な内容で、参加された方たちは実際に馬を引き取って預託している人や、これから引き取りを考えている人など様々でしたが、大変好評をいただきました。

2)啓発事業

年4回(季刊)発行している会報「RHA 通信」の他に、会の知名度を広め、引退馬についての関心を高めるため、インターネットでの情報発信や、写真展の開催など、さまざまな形での啓発活動を行っています。

① 引退馬に関する情報発信・各種広報活動

ナイスネイチャやマザートウショウの繋養先の渡辺牧場、メイショウドトウとタイキシャトルの繋養先のヴェルサイユファームではたくさんの画像や動画が Twitter にアップされるようになり、日々の馬たちの様子をリアルタイムに近い状態で知ることができるようになってきました。ホームページでの情報発信のほか、こうしたSNSの情報をみなさんにできるだけ早くお届けできるように、担当スタッフを決め、より効果的な発信に努めました。

② 会報(RHA 通信)・活動報告書の発行と送付(印刷版・PDF 版)

正会員(一般会員・FP会員)、後援会員と、賛同会員のうち会報購読を希望された方に、7月、11月、2月、5月の年4回、「RHA 通信」を郵送、WEB 閲覧を希望した方へはメールで配信しました。

省資源の観点から2018年度からWEB 閲覧を登録している方については郵送を停止させていただいています。会員専用ページのより一層の充実を図ることにより、満足度の高いコンテンツをお届けできるよう努力して参ります。

③ 啓発活動としての写真展等開催

2018年度の啓発イベント

開催日時	イベント名	イベント開催場所
2018年5月2日	啓発活動&協賛レース	船橋競馬場
2018年6月13日	啓発活動&協賛レース	川崎競馬場
2018年10月8日	馬たちのセカンドライフ 主催:財)ホースコミュニティ	東京競馬場
2018年11月30日	引退馬フォーラム 主催:財)ホースコミュニティ	Gate.J 東京・新橋
2018年12月19日	啓発活動&協賛レース	川崎競馬場

2019年1月17日～21日	ホースメッセ	横浜・赤レンガ倉庫
2019年1月30日	啓発活動&協賛レース	川崎競馬場
2019年5月16日	引退馬フォーラム 主催:財)ホースコミュニティ	Gate.J 東京・新橋

2017年度に続いて、会員の櫛野泰孝さんを中心に川崎、船橋競馬場で啓発活動を開催、一般財団法人ホースコミュニティ主催のイベントにも参加させていただきました。2019年1月17日～21日には、横浜・赤レンガ倉庫で開催された「ホースメッセ 2019」に参加しました。今回初めてブースを出店し、引退馬の繋養先リストの展示と啓発グッズやカレンダーの物品販売を行い、たくさんの方が足を止めて繋養先リストをご覧になり、物販も40万を超える売り上げとなりました。1月20日には会場内マルチスペースにて、これまでに「ホースメッセ」の各イベントでMCを務められてきた佐藤里美さんを司会に、沼田代表と、北海道・標茶町を中心とした道東エリアで官民一体となって乗馬と馬文化の振興に連携して取り組む民間事業者等による「道東ホースタウンプロジェクト」の総合プランナー・岡本昌さん、netkeibaのコラムでおなじみのライター・佐々木祥恵さんをお迎えして、『あなたの愛馬は引退したらどこへいきますか?』と題したトークイベントを行い、立ち見も出る満員となりました。各イベントでたくさんの会員ボランティアのみなさんにご協力いただき、ありがとうございました。



イベントでのパネル展示



啓発のための協賛レース

④ 馬に対する知識を深めるセミナー「馬とのコミュニケーションメソッドセミナー」の開催

「フォスターホースと過ごす日」や「ハッピーライフセミナー」で、馬という動物への知識を深めることを目的とした講習会を開催してきましたが、参加された方からの「もっとこのようなセミナーを開催して欲しい」という声と、関西地方在住の会員の方から、「関西でも馬に関するイベントをやって欲しい」というご要望があったことから、馬を客観的に見て状態を判断したり、基本的な馬の扱いができるようにし、さらにはこれらに関する指導ができる専門知識を有する人材を育成することを目指し、藤本美芽氏を講師にお迎えして、「馬とのコミュニケーションメソッドセミナー」を開催しました。



馬のストレッチ

	開催日・場所	内容
第1回	2018/10/14 JEC 日本研修センター十三 中会議室	馬の左脳を動かすために ● 馬の特性 ● 馬に触るときに注意する事 ● 馬の気持になって考える 馬とお話しましょう！ ● 馬の目の見え方 ● 馬に声をかける理由、馬の性質と習性、行動について
第2回	2019/2/17 ハーモニーファーム淡路	● 目、耳、口、鼻の動きは？ ● 体、脚の動きは？ ● 馬のクセ ● 習ったこと、できていますか？ ● 人に実践で教えられるようになりましょう！ ● 馬に触るときに安全対策、できていますか？

※第3回以降は、2019年度に開催いたします。

⑤ ホームページのリニューアル

2017年度から準備を進めてきた新しいホームページを2018年6月29日に公開いたしました。(制作費は2018年度の経費からの支出となります。)また、https(保護された通信)化が急務だったことから、フォスターホースの近況報告ブログ、被災馬 INFO ブログ、再就職支援プログラムブログも追加でリニューアルしました。

⑥ ロゴマーク入りオリジナルグッズの制作販売

イベントに参加する機会が多くなり、啓発グッズをそろえる必要性が出てきたため、トートバッグの新色や、ポーチ、ナイスネイチャ、メイショウドトウ、タイキシャトルのクリアファイルなどを制作しました。今後も会員のみなさんの声を聞きながら、充実を図っていきたいと考えています。

ロゴマークだけでなく、引退馬協会の前身の「いっしょに生きよう」のイラストを使った商品のリクエストもいただきましたので今後の参考にさせていただきます。

グッズが多様化し、直販が難しくなってきたことから、ネットショップの「ホースファクトリー」と委託販売契約を結びました。注文が便利になった、梱包がかわいい、ラッピングに対応しているなど大変好評をいただいています。イベントに行く機会のない方、ネット注文ができない方につきましては代理注文させていただきますので、事務局までお申し付けください。

⑦ ナイスネイチャ・バースデードネーション

2019年4月16日のナイスネイチャの誕生日から5月15日までの1ヶ月間、「ナイスネイチャ・31歳のバースデードネーション」として寄付キャンペーンを実施しました。「バースデードネーション」とは、お誕生日プレゼントをもらう代わりに応援する団体への寄付をお願いするファンドレイジングの手法のひとつで、近年のSNSの普及によって広まってきました。3回目となる今年は、ナイスネイチャが「再就職支援プログラム」のための寄付を呼びかけたところ、たくさんの方からサイトのみならず、お振込みや現金書留でのご支援、Facebookやtwitter、ブログでのシェアをいただき、継続寄付してくださっている方を合わせて合計363名の方から、当初の目標の500,000円を上回る1,185,688円のご寄付が集まりました。キャンペーン期間中の単発のご支援だけでなく、継続してご寄付をいただいている方がいらっしゃいますので、今後さらに増える見込みです。

今回のご寄付については2019年度に調教を開始する馬のために使わせていただきます。ご協力くださったみなさま、ご支援くださったみなさまに心より御礼申し上げます。このキャンペーンは今後も継続して行っていく予定です。

⑧ 活動記録集『馬の命を守れ！』

2016年の事業で制作した引退馬協会20周年の活動記録集『馬の命を守れ！』は手元の在庫は完売し、JRAへ委託した分の販売がわずかながら続いています。2018年度の売上(41,650円)は、啓発グッズとともに啓発事業収益として計上しています。(JRAの委託販売分も2019年7月末にて完売の報告がありました。)

3) 引退馬ネット事業

引退馬ネット事業は、引退馬協会による対外支援活動です。引退馬の引き取りに関する単発的な相談のほか、サポートホース団体設立などの長期的なサポートを行っています。

① 馬の引取り相談・サポート

相談してくる方に、引き取り、預託先の紹介や繋養方法などについてアドバイスしています。2018年度は、十分な準備がないまま見切り発車で馬を引き取ってしまうことへの警鐘として、啓発事業と連携して情報発信をしてきましたが、安易な引取り相談は減り、より現実的に準備をする方が増えてきていることを肌で感じられるようになりました。

② 引退馬繋養団体の引取り後の相談・運営サポート

荒木牧場で種牡馬として過ごしていたオリオンザサンクスが種牡馬を引退し、設立の時から計画通り、「荒木牧場功労馬サポーターズ」に入りました。同会では、先に「エスケープハッチの会」から引き継いだエスケープハッチと二頭の余生を支えていくこととなります。

「ハニーズサークル」のタカラハニーは、預託先の都合により、滋賀県から兵庫県淡路市のハーモニーファーム淡路に移動しました。そのご縁があつて、啓発事業の「馬と人のコミュニケーションメソッドセミナー」をハーモニーファーム淡路で開催させていただいています。

「渡辺牧場里親会」では、キタノダイヤモンドが亡くなり、ヴィエントバイラーが新たに加わり、セントネイチャー、プリティプリン、ケイウングリッター、ヴィエントバイラーの4頭の馬生を支えています。

「オーシャン愛馬の会」では、イブキダイハーンが永眠、メリーとホクトヴィーナスの2頭となりました。

4月には新たなサポートホース団体として、「グランデラバーの会」が設立されました。発起人の平山君枝さんを中心としてグランデラバーを引き取り、会員募集をしています。まだまだ会員数が不足していますので、ご支援いただければ幸いです。

2018年度 新規サポートホースと異動

サポートホース	サポート対象	繋養先及び異動
オリオンザサンクス(新)	荒木牧場功労馬サポーターズ	北海道新ひだか町・荒木牧場
タカラハニー	ハニーズサークル	兵庫県淡路市・ハーモニーファーム淡路へ移動
キタノダイヤモンド	渡辺牧場里親会	2018年12月23日永眠
ヴィエントバイラー(新)	渡辺牧場里親会	北海道浦河町・渡辺牧場
イブキダイハーン	オーシャン愛馬の会	2019年2月3日永眠
グランデラバー(新)	グランデラバーの会	北海道浦河町・渡辺牧場



オリオンザサンクス

ヴィエントバイラー

グランデラバー

4) フォスターペアレント(FP)事業

FHが終生穏やかで幸せに元気に暮らせるように支援していただく里親＝フォスターペアレント(以下、FPと記載)制度によって、FHたちを安定していく繋養する、引退馬協会の基幹事業です。里親制度の運営、集いの場の提供、FHの預託など、FHに関わる事業はすべてFP事業となります。

① 引退馬の繋養を支える里親制度の運営と集いの場の提供

引退馬協会の会員イベントとして、2019年1月20日に横浜の赤レンガ倉庫で新年懇親会を開催し、ホースメッセのトークイベント後とあって、たくさんの方にご参加いただきました。美味しい料理とお酒をいただきながら、馬談義に花が咲きました。

② FHの繋養

2018年6月21日にセントミサイルが28歳で、2019年5月18日にはマザートウショウが29歳で永眠しました。また、5月に第5頸椎骨折をして、神経の圧迫により脚部不安を発症していたトウショウオリオンが、2019年度に入ってからではありますが、7月8日に永眠しました。享年26歳でした。このところ辛い別れが続いていますが、最後まで見守ることは終生繋養をしている私たちの宿命です。それぞれの唯一無二の個性を発揮してくれた愛すべき馬たちを、心の中に生かし続けていただければ幸いです。ご支援くださった皆さま、献身的に管理をしてくださった預託先の皆様に、心より御礼申し上げます。



セントミサイル



マザートウショウ



トウショウオリオン

フォスターホース最高齢の31歳のナイスネイチャもさすがに年齢を感じるがありますが、メテオシャワーはじめ新しい放牧仲間達と楽しそうに過ごしています。

30歳のキョウエイボーガンは、日本ソフト競馬協会主催の「第二有馬記念」で優勝し、脚光を浴びました。乗馬クラブアリスの中山オーナーご夫妻にかわいがられ、元気に過ごしています。

メイショウドトウとタイキシヤトルは、種牡馬生活を過ごしたイーストスタッドから日高町のヴェルサイユファームへ移動しました。馬と人のふれあいを重視する中、去勢手術をするには年齢的にも最後のチャンスと考え、1月14日に立位の局部麻酔にて二頭の去勢手術を行いました。25歳のタイキシヤトルは術後食欲が戻らず一時はだいぶ痩せてしまいましたが、今では回復しています。23歳のメイショウドトウは若々しくハリのある馬体を維持しています。移動した時期が繁殖シーズンだったため、見学できない状態が続いていましたが、メイショウドトウが先に分場に移動して4月1日から見学解禁に、タイキシヤトルも新しい放牧地が完成するのを待つて移動し、5月20日から見学が解禁になりました。これか



中山オーナーご夫妻と副賞のレイとゼッケンをつけたボーガン

らは通年の見学が可能となります。とはいえ、タイキシャトルは嘔みますので、見学の際は十分ご注意ください。

千葉では、24歳になったハリマブライトがハリマを慕うジェニーを従え、月一度の腰の治療を続けながらも元気に過ごしています。15歳のコアレスピューマは、乗馬としての調教も進み、今では会員さんも騎乗できるようになりました。「FHと過ごす日」では、両馬とも、騎乗に、手入れに、講習会のモデルホースにと大活躍しています。

FHの高齢化が進む中、何か異常があった場合には早めに診察を受け、適切な処置を取ってもらうようにし、QOL(生活の質)を維持していくことを重要と考え、必要なサプリメントなどは積極的に用いるようにしています。

4月には、新たなフォスターホースとして、繁殖を引退したエアリカコを迎え入れ、沖田忠幸牧場へ預託しています。リカコ自身のFPは少ないですが、ナイスネイチャ、メイショウドトウ、タイキシャトルと言う著名馬たちによる相互扶助によって助けられています。今はまだリカコを知っている方は多くないと思いますが、リカコの個性に触れ、多くの方に愛されるフォスターホースになってほしいと考えています。(被災馬FHは⑥参照)



エアリカコ

③ FHに関わる情報発信と会員向け「FHレポート」の発行

FHに関わる情報発信として、FHレポートを、RHA通信を発行した7月、10月、1月、5月とを除く計5回(合併号2回あり)、FP会員に郵送及びPDF版で発行しました。この他、会のホームページ内の近況報告ブログとfacebook, twitterを連動させ、随時、各FHの近況報告を発信しました。

④ FHカレンダー制作販売

「2019年FHカレンダー」は1100部制作し、FP会員に贈呈したほか、2018年10月から昨年と同じく一部800円(送料込900円)で販売しました。

今年度から、イベントでの直販を除き、ネットショップの「ホースファクトリー」に販売を委託し、クレジットカードほかコンビニ決済等も選べるようになりました。また、インターネットで注文できない方については引退馬協会の代理注文をする形で対応しました。

掲載したフォスターホース写真の多くをプロカメラマンの朝内大助氏に提供いただき、好評をいただいております。

イベントでの売上は啓発事業収益に含まれています。2019年度からは、FP事業としての支出は制作にかかる経費のみとし、販売は啓発事業に移行します。

⑤ FHを偲ぶ会・セントミサイル近況報告集とアルバム制作

北海道ツアーで執り行う予定の「セントミサイルを偲ぶ会」は、ツアー前日に胆振東部地震が発生し、開催できませんでした。2019年度の北海道ツアーで、セントミサイルとマザートウショウと、2019年度に入って亡くなったトウショウオリオンを偲ぶ会を合同で行います。

ミサイルのFP会員のみなさんには今までの馬の近況報告を1冊にまとめた近況報告集とミニアルバムを作成し、ご支援のお礼とさせていただきます。

⑥ 被災馬 FH 繋養

東日本大震災で被災したコッチャン(トーセンクレイジー、12歳)、ハーモニチトセチャン(年齢不詳)を鹿児島に、おにくん(ナイキプラネット、13歳)を福島県南相馬市に被災馬 FHとして預託しています。

被災馬FHの預託にかかる経費は、被災馬支援基金から支出していましたが、基金の残高が減少したため、2015年度からはフォスターペアレント事業として、被災馬FP会員からの会費を中心に支出しています。

コッチャンは放牧地の群れのボスとして頼もしい姿を見せてくれる一方、こここのところコッチャンと「おつきあい」ができる強者が出現して微笑ましい限りです。ハーモニチトセチャンはビッググラスと相変わらず仲睦まじく過ごしていますが、一頭でふらっとどこかへ行ったりとマイペースぶりを発揮しています。おにくんは、厩舎みちくさの広い放牧地を満喫し、再就職支援プログラムの卒業生のコンコルドダンスたちと走り回っています。



おにくん

5) 協賛及び後援事業

2018年度は、実施しませんでした。

上記5事業から派生するその他事業

① 被災馬支援活動

被災馬支援基金からの支出はありませんでしたが、引退馬協会が今も見守りをしている被災馬は、「被災馬フォスターホース」として受け入れた4頭(うちエナコは2014年永眠)を除き、30頭います。うち2頭については今後被災馬フォスターホースとして受け入れることも視野に入れて見守りを続けています。

② 「次の馬生」支援活動

(1) ハッピーライフカバー配布

引退後に引き取りたいと思っている馬を行方不明にしないため、気にかけている馬の健康手帳につけるカバーです。2018年度も、わずかではありましたが希望された方に1部1,000円(制作費)で配布しました。

(2) 外国産繁殖馬支援

「次の馬生支援基金(スキャン基金)」からの支出はありませんでした。基金の残高は、1,523,367 円です。

(3) 騎馬隊退役馬支援

騎馬隊から北海道のローリングエッグスクラブへ橋渡しをしたテンジンショウゲンが、2018年12月7日に28歳で旅立ちました。千葉県御宿町の鶏卵牧場に引き取られたハヤテはtwitterですっかり人気者となり、埼玉県越生町の「Village My Esse」に引き取られた響輝は蹄のトラブルも解消して、みなさんにかわいがられて元気に暮らしています。騎馬隊退役時に蹄に大きな問題を抱えていた翔馬も、忍耐強い管理をしていただいたおかげで、現在は乗馬として競技会にも出場するまでに回復し、立派に仕事をしているとの報告がありました。

③ 引退馬連絡会

JRAの引退馬支援に関するヒアリング等、必要に応じて参加各団体と連絡を取り合ったり、高齢馬の獣医療に関する情報交換を行いました。また、ホースメッセで行った繋養先リストにもほとんどの団体が参加しました。今後、より一層の連携の強化を摸索して参ります。

④ 根岸競馬場跡保存活動と協働による啓発活動

2018年度で3回目となる旧根岸競馬場一等馬見所の保存と活用を呼び掛けるイベント「J. H モーガンを語るシンポジウム&コンサート」を、2018年10月6日にNPO法人歴史的建造物とまちづくりの会と(公)日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会との連携により、横浜・根岸の馬の博物館イベントホールで開催しました。

ゲストスピーカーに一等馬見所を設計したJ.H モーガンの研究者や、建物の修復保存の研究横浜市都市整備局の方々を迎え、より具体的な提案もいただきました。コンサートでは、ハープと鍵盤楽器の演奏に加えて当時の歌などを交え、大変ご好評をいただきました。当日は会員ボランティアの皆様にもお手伝いいただき、改めて御礼申し上げます。

本イベントは、今後も毎年秋に継続して行って参りますので、ぜひたくさんの方に足をお運びいただけたら幸いです。

その他の事業(営利事業)

法人税の負担に見合った収益が見込めないとして、2018年度も営利事業は実施しませんでした。

※引退馬協会は千葉(本部)と北海道(北海道事務所)の二つの都道府県に事業所があるため、千葉県と香取市、北海道と長沼町の4か所で法人税(均等割り)の支払いが発生します。

2019年度に向けて

2019年度も、4つの主要事業を基幹として、引退馬の支援活動の先駆者として、「一頭でも多くの引退馬を生かし、最後まで見守る」ために、これまで通り一頭一頭を丁寧に次につなげていくことを大切に考えて活動して参ります。引退馬協会を經由して譲渡した馬について見守り、時には必要なサポートを行っていきます。

一方で、引退馬の受け皿を大きくしていくための活動をしていきたいと考えています。JRAの引退馬支援事業で具体的な動きが始まり、当協会内の動きもさらに増えてきています。昨年からはじめた引退競走馬杯(RRC)は引退して3年以内の元競走馬の競技会ですが、当協会でも乗馬など引退馬の活用を促すことが今後の引退馬の活用には不可欠と考え、御殿場で行われた競技会の観戦をSNSで呼びかけをするとともに、マスコミの方にも協力体制をお願いしています。来年に向けてもさらに進めていきたいと考えています。

そして第2ステージを乗馬等として送った馬たちを、次のステージ、最終ステージへ繋いでいくために牧場紹介などの情報提供を新年度においても続けて参ります。

引き続き、ご理解とご支援をいただけますよう、お願いいたします。